

うれしや 久しぶりの大相撲  
大相撲七月場所観戦記

無観客で開催された三月場所の殺風景な映像が頭に残っているテレビ機。観客数や関係者の入館を最小限に止めて、いくつかの厳しい制限事項を定めた上で七月場所が始まった。

多くの力士の中には、満場割れんばかりの大声援がないと力を出せない力士もいれば、大声援があると冷静さを失いやすいという力士もいるようで、先場所と今場所と通常の場所とのそれぞれの違いが生み出す影響は様々のようだ。

<1> あわれ ご乱心・・・

何とか初日の取り組みを完結できそうなところまで進行してきところで、鶴竜の不手際に館内がどよめいた。前さばきの良い遠藤の食いつきを警戒したつもりなのだろうか、立ち腰気味の状態から裾払いを打ち出した。遠藤は重心が低い位置にあり、鶴竜の足の動きを察するやいなやスッと足を引いた。鶴竜は空を切った足とともに半回転して転倒。横綱としては何ともみっともない負け方で、遠藤に金星を提供した。

テレビ中継では、放送開始の冒頭に両横綱へのインタビューがあり、この場所に望む意気込みのメッセージが発せられていたが、鶴竜のメッセージは比較的重厚なものだった。

その重厚なメッセージを聞いた後で見せられた取り口が「腰砕け」による敗戦とは・・・。

二日目に見事な取り口で立ち直るならばまだしも、体のどこだかの不具合を理由に休場。初日のメッセージで語る「自信」と「気合い」とは裏腹の結末となり、悪い後味が残ることになった。

<2> 非常識への対処も非常識

七日目、突然阿炎が休場。理由は「禁じられている会食・外食をした」ことによるとのこと。事実が判明した途端に親方は休場届を出して、緊急にPCR検査を受けさせたと言う。

相撲協会が「禁止・自粛」の通達を発しているのを無視したもので、一般企業に置き換えれば「就業規則違反」に該当する事案である。つまり「懲戒」の対象となるような出来事で、「休場命令」「謹慎」「出場停止」などの沙汰がとられるのが、あるべき姿ではないだろうか。

このままの状態、来場所素知らぬ顔で出場させるようでは、相撲協会の資質が疑われる。

しかも、件の親方はこの日のNHKの実況中継にゲストとして出演して、事件の顛末を喋った上「毅然とした処置」といわずばかりの口調で休場させた旨を語っていた。

相撲協会として、力士と管理監督すべき立場にある親方に対して明確な姿勢を示すべきと考える。

またこの数日後には、ある部屋持ちの親方が場所中に飲食店で泥酔している姿がSNSに投稿されていたという。このままでは、非常識な組織の、非常識な出来事と、非常識な対処で、非常識な集団と言われても仕方がない。

<3> 優勝賜杯の行方やいかに

新大関朝乃山が登場する、しかも久しぶりの場所で観客数は少ないが世間の注目度は高い。

そんな中で新大関はほぼ順調な滑り出しをして、誰もが白鵬との決戦を予感したに違いない。しかしながら、時の氏神は冷酷だった。11日目に白鵬が大栄翔に敗れたところから筋書きが変わってきた。

幕尻で1敗を堅持してきた照ノ富士がいつの間にか首位に浮上ってきて、通例に従って12日目あたりから上位力士との対戦が組まれたが、朝乃山・御嶽海をも退けて賜杯を手にした。

大関から陥落して序二段まで下がった後に幕内に復帰しての優勝とのことで、ニュース価値を高める結末になった。(中盤以降の優勝争いの流れを表にまとめてみた:次ページ)

	無敗	1敗	2敗	3敗	備考
5日目	白鵬 朝乃山・ 御嶽海・ 妙義龍 琴勝峰	貴景勝・ 正代・玉鷲・ 北勝富士・ 琴奨菊・ 照ノ富士・ 琴恵光	隠岐の海・宝富士・ 輝・阿炎・千代大龍・ 栃ノ心・高安・琴ノ若	大栄翔・隆の勝・ 碧山・炎鵬・照強・ 徳勝龍・魁聖・勢・ 佐田の海・錦木・ 若隆景・	鶴竜休場 (2日目から)
6日目	白鵬 朝乃山 御嶽海	正代 玉鷲 妙義龍 琴勝峰 照ノ富士	貴景勝・北勝富士・ 高安・栃ノ心・琴奨菊・ 琴恵光・琴ノ若・	大栄翔・隠岐の海・ 隆の勝・碧山・徳勝龍・ 千代大龍・輝・阿炎・ 炎鵬・若隆景・	
7日目	白鵬 朝乃山 御嶽海	正代 妙義龍 琴勝峰 照ノ富士	貴景勝・玉鷲・ 琴奨菊・琴恵光	大栄翔・北勝富士・ 隆の勝・栃ノ心・高安・ 徳勝龍・炎鵬・琴ノ若	阿炎休場
中日	白鵬 朝乃山	正代 御嶽海 照ノ富士	玉鷲・琴奨菊・ 妙義龍・琴勝峰・ 琴恵光	貴景勝・大栄翔・ 北勝富士・隆の勝・ 栃ノ心	琴ノ若休場
9日目	白鵬 朝乃山	正代 照ノ富士	御嶽海・妙義龍・ 琴奨菊・琴勝峰	貴景勝・北勝富士・ 玉鷲・栃ノ心・琴恵光	
10日目	白鵬	朝乃山 照ノ富士	正代・御嶽海・	貴景勝・玉鷲・妙義龍・ 琴奨菊・琴勝峰・琴恵光	
11日目		白鵬 朝乃山 照ノ富士		貴景勝・正代・御嶽海・ 玉鷲・琴奨菊・琴恵光	
12日目		朝乃山 照ノ富士	白鵬	正代・御嶽海・琴恵光	貴景勝休場
13日目		照ノ富士	朝乃山	白鵬・正代・御嶽海	白鵬休場
14日目			照ノ富士	朝乃山・正代・御嶽海	琴勇輝休場 琴ノ若再出場
千秋楽			照ノ富士	朝乃山	

#### <4> 照ノ富士優勝を裏から覗く

大きな体で腰高で、力任せの相撲で大関まで上がったが、それが元で怪我が重なり陥落。



しばらくぶりで見えた照ノ富士の相撲は、右四つの型が改善されていた。右を指す、左で上手を取る、前に進む動作が、大関時代とは随分変っていた。

「膝を曲げて重心を下げる」「差し手は深く」「差したら返す」「上手は浅く」「上手は取ったらすぐ引きつける」等の四つ身の鉄則がかなり守られていた。恐らく伊勢ヶ浜親方(元横綱旭富士)と安治川親方(元関脇安美錦)の指導が入っていると思われる。この型が地力として備わってきたら素晴らしいと思うが、15日間の土俵の中には、まだ昔の「腰高・強引・力任せ」が何番も見られた。来場所以降注目すべきポイントになるだろう。(左画像:朝乃山を破った右四つの相撲)

13日目に1敗対決で照ノ富士が朝乃山を破った翌日、急遽「朝乃山・照強戦」が組まれた。そして件の結末に

至ったのだが……。私見としては、上位力士・三役力士との対戦は、もう少し早い時期でも良かったように思う。

「優勝は朝乃山か照ノ富士か」の騒ぎの中で、朝乃山の対戦相手となった照強は「照ノ富士と同じ伊勢ヶ浜部屋所属」で、しかも伊勢ヶ浜親方は審判部長。取り組み編成は審判部の役割になっている。(右画像:照強 朝乃山を破る)

誤解を招く取り組み編成変更だったように思うが、考えすぎであって欲しいとも思う。(誤解ではないとしたら問題はもっと大きいが)



#### <5> 佐渡ヶ嶽部屋を覗いてみる

36才の琴奨菊が好調で、同年代の力士の引退が続く中で、まだまだ現役を続けそうな気配である

佐渡ヶ嶽部屋では、琴ノ若(親方の息子)・琴勝峰の若手力士が伸びてきて、そのプラスの影響として琴恵光・琴奨菊が元気なようだ。これはこれで素晴らしいことと言えるのだが……。

琴奨菊は今場所から立ち合いの姿勢を変えた。時間になると、尻を上げて頭を下げて仕切りに入り、この姿勢から立ち上がる。相手力士からすると、琴奨菊がこの姿勢で尻をゆさゆさ揺らしていると、立つ気があるのか否かが読み取れず、合わせにくい。

腰をおろして、諸手を下ろして……という仕切りの基本姿勢が崩れているのは如何なものだろう。

もっとも、琴奨菊のこれまでの立ち合いにも問題があった。相手力士から意図的な立ち渋りと受け取られるような動作の後、微かな「チョンつき」しかしない手つきは目障りな感じだった。

同じ部屋に、琴勇輝・琴恵光など腰を下ろして両手を着いてきちんと仕切ることで評判な力士もいる。親方主導でこのようなことを教育指導して行くべきではないかと思う。

仕切りでは秀麗な琴勇輝にも問題がひとつある。土俵に上がる時にはいつも、両手の複数本の指をテーピングで束ねている。その昔、チンピラが喧嘩をする時に「殴った力が相手に強いインパクトを与える」ことを狙って指を絆創膏で固めたのと同じ手法で、尋常ではない手段だと見ている。

明るい話題が多いと言われているこの部屋の中にも、気になる出来事の断片が感じられる。

幕内に5人の力士を並べる大部屋になり、明日につながる人材育成にも力を入れていることと思うので、基本指導を徹底して「さらに立派な力士の創出」に尽力していただきたいなと思った。

以上